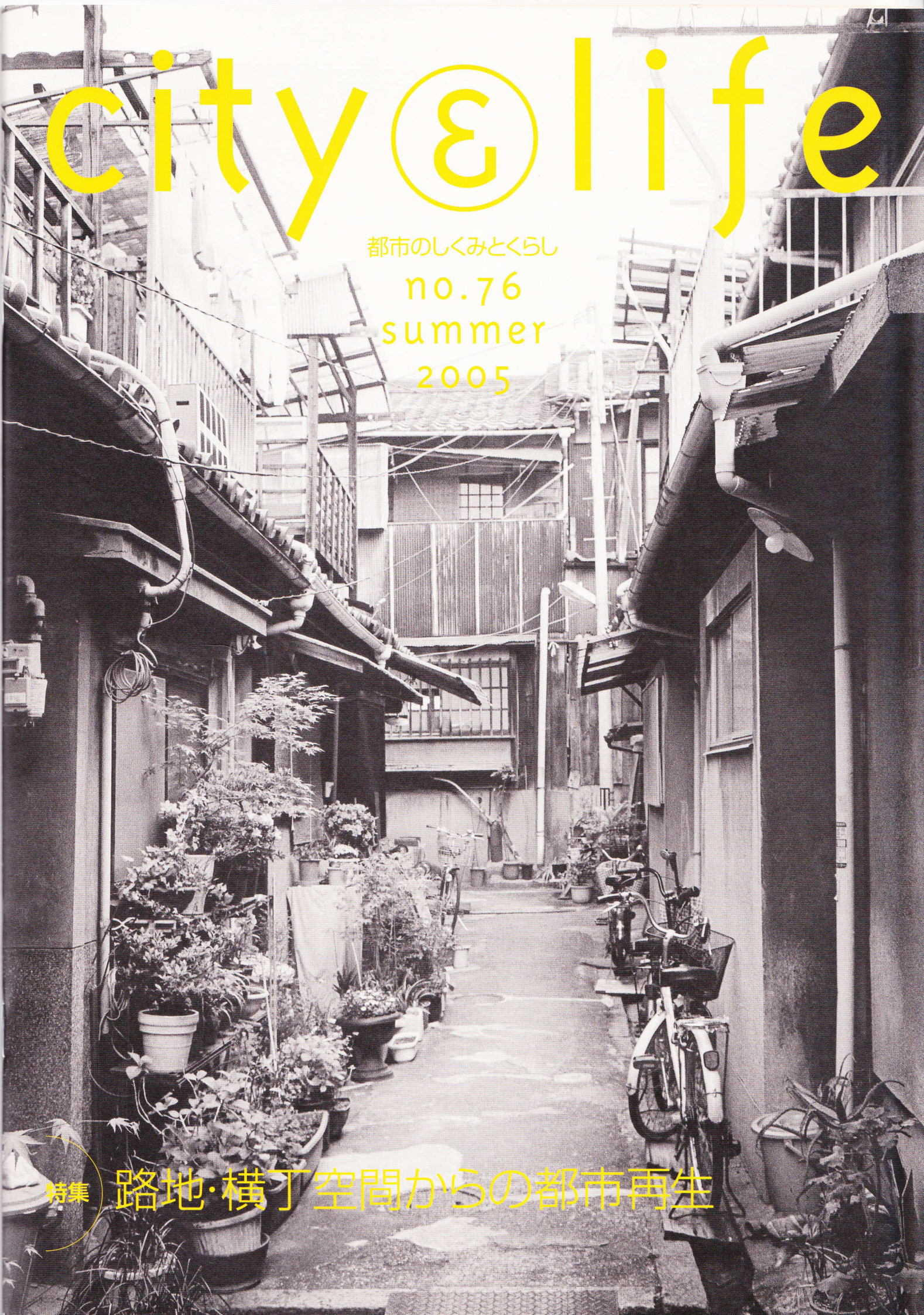
city & life

都市のしくみとくらし

no.76
summer
2005



特集 路地・横丁空間からの都市再生

city&life no.76 summer 2005

表紙―大阪・空堀／裏表紙―京都・先斗町 photo:伊奈英次

特集　路地・横丁空間からの都市再生

contents

対談	路地はなぜ必要か　安原秀×橋爪紳也	2
サーベイ	復活! 法善寺横丁　蘇った路地空間	7
	路地・横丁Report［大阪編］	12
	路地・横丁Report［京都編］	14
ルポ	路地はコミュニティ　「向こう三軒両隣」のまちづくり	16
ルポ	「路地っぽさ」を演出する　路地の時代の商業施設	30
インタビュー	路地から見る都市の未来　青木仁	36
綴じ込みMap	路地・横丁Report［東京23区編］	
	back number・information	40

路地・横丁空間からの都市再生

特集

「町歩き」ブームによって再評価されるようになった「路地空間」。
細く、曲がりくねって見通しの効かない路地がなぜ、魅力的なのか。それは、
交通や商業の発展からは取り残されたその路地空間に、その町固有の「日常」が根づいているからではないだろうか。
自然発生的な都市が、自らが必要とする空間を構築した結果できたヒューマンスケールな空間。
いわば「居住原理」によってできているからこそ、路地は魅力的なのだろう。
しかし、そうした路地のある町並みは、概して古くからの木造の住宅が密集する「木密地域」。
都市計画上の「問題」であり、防災・防犯上も好ましくないものと考えられている。
2002年9月、大阪市の法善寺横丁の旧中座解体作業中に発生したガス爆発による火災と、2003年4月、
再建最中に再び火災に見舞われるという、二度の災害を乗り越えて、再生・復興を果たした法善寺横丁に関する
さまざまな活動を見ながら、路地の魅力と課題、木密地域の今後のあり方などを考える。

photo:**伊奈英次**「道頓堀極楽商店街」（関連記事:p30）